

コラム 良好な景観の形成や道の駅の機能向上など、まちづくりに関する講演、技術指導

良好な景観の形成や道の駅の機能向上は、地域の魅力を高め、観光振興による地方創生や地域間対流促進等に貢献するものとして、観光立国推進基本法、国土形成計画(全国計画)、北海道総合開発計画等において求められています。また道の駅については、制度発足から20年以上経過していることから、建て替えや増改築が増加しています。

地域景観ユニットでは、これらに対応するため「国際的観光地形成のための公共空間評価技術に関する研究」や「『道の駅』の設計・改修技術に関する研究」等の研究、技術開発を行っています。研究成果を活用して、国の機関、自治体等に対して景観まちづくりや道の駅に関する講演、技術指導を実施し、地方紙等に掲載されました。(写真-1, 図-1)

地域景観ユニットでは上記以外にも講演、技術指導を年間150件以上実施しています。例えば国道273号(上士幌町の国立公園内)では、北海道開発局からの依頼により「十勝地域道路協働マネジメント」において技術指導した結果、固定式視線誘導柱(矢羽根)が地域景観ユニットで提案した改良型スノーポールに変更され、道路機能を確保しながら大幅な景観向上に貢献しました。(写真-2, 3)



写真-1 浜頓別町における講演

	開催地	内容	新聞
4月	登別市	道の駅	北海道新聞
8月	安平町	道路景観	北海道通信
8月	岩内町	道の駅	北海道新聞
10月	増毛町	景観 まちづくり	日刊留萌新聞
12月	本別町	道の駅	十勝毎日新聞
2月	浜頓別町	道の駅	日刊宗谷

図-1 講演等の新聞報道(H27年度)



写真-2 国道273号における
現地技術指導



写真-3 固定式視線誘導柱(矢羽根)が改良型スノーポールに変更され、
道路機能を確保しながら大幅な景観向上に貢献
(H27年度冬に対策実施のため「対策後」はフォトモンタージュ)